
研究活動報告

ウェビナー「高齢者のニーズに応える：米・日・マレーシアの識者が語る 新型コロナから得た知見」への参加

アジア健康構想 (AHWIN) の一環として、2020年5月29日に「高齢者のニーズに応える：米・日・マレーシアの識者が語る新型コロナから得た知見 Responding to the Needs of Older People During the COVID-19 Pandemic - Sharing Lessons Learned」と題するウェビナーが、東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA) と日本国際交流センター (JCIE) の共催により行われ、米国の高齢問題専門ジャーナリストであるアイナ・ジャフィ氏、マレーシア国民大学 (UKM) 医学部准教授のモハッド・ロハイザ・ハッサン氏と共に筆者が報告した。

米国、日本、マレーシア三か国における新型コロナ感染症の影響は、患者数で見ても死亡数で見ても大きく異なるが、高齢者に限ってみても、施設における死亡割合など、米国の事情はかなり厳しいことが示された。また社会的孤立に対し、三か国それぞれの事情があるが、マレーシアでは離れた家族と顔を見て会話ができるように、政府が一日当たり1GBの無料データを提供し、スマートフォンの活用が図られていた。いまだ収束が見えない新型コロナ感染症に対し、高齢者のIT利用の推進は一つの課題、もしくは解決策であると考えられる。(林 玲子記)

国連ハイレベル政治フォーラム・サイドイベント 「人口データと移民動向」

2020年7月9日(米国時間)に「人口データと移民動向を自発的国家レビュー(VNR: Voluntary National Review)に反映させる」と題するオンライン・サイドイベントが、国連人口部により開催され、メキシコ、モルドバ、南アフリカの報告者とともに、筆者が参加した。

持続可能な開発目標(SDGs)が2015年の国連総会で採択されてから、そのフォローアップとして毎年7月にハイレベル政治フォーラム(HLPP)が国連本部で開催されており、その場で希望する国がSDGsの取組状況について自発的国家レビュー(VNR: Voluntary National Review)を実施しており、日本も2017年に実施している。今回のサイドイベントは、VNRにどのように人口データを組み込んでいくか、特に移民動向をどうとらえるのか、各国および国連の動向を紹介し討議する場であった。しかしながら各国における「人口」を切り口にした課題は様々であり、論点は拡大し1時間という時間制限もあり、議論の収束点は見出しにくい状況であった。

なお、フォーラムは日本時間午前1時から開催され、世界各国の参加者がある場合、オンライン開催はいかに妥当な時間設定をするかが大きな課題であることが実感された。(林 玲子記)

2019年度日本人口学会関西地域部会

2019年度の関西地域部会は、当初3月14日(土)に神戸大学文学部(兵庫県神戸市)で開催予定であったが、「COVID-19(新型コロナウイルス)」の影響により延期となり2020年8月8日(土)に

ZOOM を用いたオンライン形式で開催された。本地域部会のテーマは「近代移行期の人口移動—人口移動からみた過去・現在—」で、総勢29名の参加があった。

歴史上の人口移動という性格から、資料の入手や解釈が難しいながらも、人口移動の実態に迫る内容が報告された。さらに、総合討論において、指定討論者の丸山洋平准教授（札幌市立大学）からは、人口移動の分析によって何を語るのかという点で、人口移動分析の視点についても提起されるなど、活発な議論が交わされた。以下に、発表のタイトルを記す。

1. 幕末の大都市周辺地域における人口移動の分析 —丹波国桑田郡馬路村を事例として—
..... 長島雄毅（宮崎産業経営大学）
2. 幕末期の京都における人口移動
..... Mary Louise Nagata（Francis Marion University）
3. 19世紀の越後国からの出稼ぎ—越後漁村旧角田浜村の事例分析—
..... 張 婷婷（東北大学）
4. 近世東北における人口移動の空間的な広がり —二本松藩町村の比較を通して—
..... 長岡 篤（麗澤大学）
5. 近代期の都市村落間人口移動をとらえる視点
..... 鈴木 允（横浜国立大学）

（貴志匡博 記）